

令和8年度

「運営に関する計画」



大阪市立豊里南小学校

令和8年4月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【安全・安心な教育の推進】

小規模校で人数が少なく、みんな顔も名前も知っているという安心感からトラブルは少ない。優しい児童が多く問題行動もほとんど見られないため、概ね安心して学校生活を送ることができていると言える。しかし、基本的な生活習慣が身につけていないことから、朝起きられずに遅刻をしたり、不登校気味になったりしている児童の割合は高い。

いじめの認知件数についても特に大きな変化はないが、優しさから友達を注意することに戸惑い、悪ふざけが度を越していることを認識していても声を上げることに躊躇するような姿も見られる。互いの違いを認め合い尊重し合う集団の育成とともに、問題意識をもって善悪を判断し、声を上げることのできるように指導が必要である。

小学校学力経年調査における「学校に行くのが楽しい」（87%）「自分には、よいところがあると思う」（83%）と自尊感情にかかわる質問に対しても肯定的に回答する児童が多い。昨年度は不登校や遅刻の数も一昨年度より大幅に減少させることができたが、まだまだ高い数値であるため、継続した指導、家庭への啓発が重要である。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

昨年度の全国学力・学習状況調査の結果を全国平均と比較すると、国語科は-16.8p、算数科は-15p、理科は-13.1pと課題が残る。一方、大阪市学力経年調査の結果を見ると、どの学年も大阪市を基準とした標準化得点を経年比較すると昨年度よりも上昇している。学力の面では、どうしても受け身である児童に、自らの学習を自覚し、自分で調整する力を継続して育成していく必要がある。さらに、学力や体力に課題が見られる原因の多くは基本的な生活習慣が身につけていないことに起因していると考えられる。平日に長時間ゲームやSNSなどを利用し、寝る時間が遅くなったり、ゲームやSNSに依存してしまったりやる気が出なかったり、体を動かすのが億劫になってしまったりしている児童が少なくない。さらに、それらが高学年だけでなく、低学年にも広がってきていると感じる。児童のスマートフォンの所有率も高いため、時間を決めるや約束事をつくるなど、一定の規制をかける必要があると実感している。そのためにも、引き続き、家庭への啓発を根気強く続けていくことが大切である。

【学びを支える教育環境の充実】

ICT活用はここ3年で加速度的に進んできており、デジタルドリル、学習動画、生成AIと様々な活用方法を探ってきた。学習者用端末の活用は、年間を通して、かなり高い数値を上げており、大阪市では、年間授業日の80%以上で児童が端末を活用することを目標とされているが、昨年度の活用率は平均で93%であった。昨年度は生成AIパイロット校としてあらたな取り組みも始め、使用率だけでなく、教育活動の多岐にわたって、ICTを活用することができている。児童も日常的に端末を使いこなしている。その一方で、情報モラルに関する計画的・継続的に指導は十分ではないため、今年度は学校全体でデジタルシチズンシップ教育を発達段階に応じて系統的に実践していく必要がある。

働き方改革については、週一度のゆとりの日や長期休業中の閉庁日などは確実に実行することができている。普段の日も、午後7時までには全員が退勤するなど、長時間勤務も減っているが、担任をしている教諭は、ほぼ毎日のようにPCを持ち帰っているため、本質的な解決には至っていないと感じている。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・ 令和11年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、90%以上にする。
- ・ 令和11年度の全国学力・学習状況調査の「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。
- ・ 令和11年度の小学校学力経年調査・校内調査の「自分には、よいところがありますか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を、85%以上にする。
- ・ 令和11年度の小学校学力経年調査・校内調査の「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができますか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を、75%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・ 令和11年度の小学校学力検年調査における国語と算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和7年度より0.5ポイント向上させる。
- ・ 令和11年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を、75%以上にする。
- ・ 令和11年度の小学校学力経年調査・校内調査の「総合的な学習の時間や各教科等において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」の項目について、肯定的に回答する児童割合を、80%以上にする。
- ・ 令和11年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。
- ・ 令和11年度の小学校学力経年調査・校内調査における「規則正しい生活(「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」)が大切だと思う」に対して肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ 令和11年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、65%以上にする。
- ・ 令和11年度の小学校学力経年調査・校内調査の「インターネットや生成AI、SNS等を活用する時に、情報の確かさを確認し、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか。」に対して肯定的に回答をする児童の割合を、95%以上にする。
- ・ 令和11年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)。」に対して、「読書を全くしない」と回答する児童の割合を、25%以下にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における、国語と算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.2ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を73%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「総合的な学習の時間や各教科等において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」）が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を64%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、自分のペースで理解しながら学習を進めていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を78%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「インターネットや生成AI、SNS等を活用する時に、情報の確かさを確認し、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を92%以上にする。
- ・時間外勤務時間について、年720時間を超えて実施する教員をゼロにする。
- ・小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。」に対して、「読書を全くしない」と回答する児童の割合を30%以下にする。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>いじめの早期発見・早期解決に努めるとともに、学級や学年でのトラブルについても迅速に対応することで、児童一人一人が安心して過ごすことができる環境を整える。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。 	
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>児童の小さな変化を見逃さないように児童観察・理解に努めるとともに、学年内や学校全体で情報を共有することができるようにする。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。 	
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>自分の好きや得意を生かして課題を解決することができる活動に取り組むことで、児童一人一人が自分の個性やよさを自覚することができるようにする。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84%以上にする。 	

取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】

道徳科や学級活動などの時間を通して、自他をともに大切にすることの意味を理解し、友達とのつながりを意識して学校生活を送ったり、学校行事やたてわり班活動の場で他学年児童と協力して過ごしたりすることができるようにする。

指標

- ・小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における、国語と算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.2ポイント向上させる。 ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を73%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「総合的な学習の時間や各教科等において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」）が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>児童が「わかった」「できた」と実感できる授業を実践するとともに、習熟度別少人数授業や個別指導を充実させることで、児童一人一人の学習内容の定着を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における、国語と算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.2ポイント向上させる。 	
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>各教科の授業や総合的な学習の時間、学級会活動などにおいて、単に話し合い活動を取り入れるだけでなく、「何について」「どのように」話し合うのかを意識することができるように、児童一人一人の考えを明確にする手段や、話し合いを進めるためのスキルを身につける活動を取り入れる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を73%以上にする。 	

取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

おもに総合的な学習の時間において、児童一人一人に自らの学びを自覚させたり、課題設定や振り返りの仕方を工夫したりすることで、主体的に自己実現しようとする態度を育成する。

指標

- ・小学校学力経年調査における「総合的な学習の時間や各教科等において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。

取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】

- ・体育科の授業において、児童が自分たちの課題を意識し、チームの友達と協力しながら練習したりゲームの作戦を立てたりして、課題解決に向かうことができるようにする。
- ・児童集会や体育的行事を通じて、児童一人一人が楽しんで体を動かすことができるような活動を実践する。

指標

- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86%以上にする。

取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】

- ・養護教諭の保健指導，栄養教諭の食育指導，委員会活動の取り組みなどを通して「早寝・早起き・朝ごはん」が大切であることを実感できるようにする。
- ・学校ホームページや保護者メールなどを活用して，規則正しい生活を送ることの重要性や，児童の日常生活に及ぼす影響などについて保護者に啓発する。

指標

- ・小学校学力経年調査における「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」）が大切だと思う」に対して，肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を64%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、自分のペースで理解しながら学習を進めていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を78%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「インターネットや生成AI，SNS等を活用する時に、情報の確かさを確認し、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を92%以上にする。 ・時間外勤務時間について、年720時間を超えて実施する教員をゼロにする。 ・小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。」に対して、「読書を全くしない」と回答する児童の割合を30%以下にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科や総合的な学習の時間において、インターネットを使って情報を収集したり、ロイロノートを使って友達と考えを交流して合意形成を図ったり、プレゼンテーションで自分の考えをまとめたり表現したりする活動を取り入れる。 ・スプレッドシートなどを活用して、毎時間の学習について振り返りを記録し、デジタルポートフォリオとして、自らの学びの軌跡をたどったり、指導者が評価に役立てたりすることができるようにする。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を64%以上にする。 	
<p>取組内容②【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>デジタルドリル・学習動画・生成AIなどを日常的な学習の場面で活用し、自分で学習内容を振り返ったり、自分に合った練習問題に取り組んだりするなかで、自分で自分の学習を調整することができる力を育成していく。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、自分のペースで理解しながら学習を進めていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を78%以上にする。 	

取組内容③【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】
学年ごとに情報モラル教育の年間指導計画を立て、道徳科や社会科など、教科等の学習とも関連付けながら、発達段階に応じて、情報を扱う際のルールや注意点を理解し実践につなげていく。

指標

- ・小学校学力経年調査における「インターネットや生成AI, SNS等を活用する時に、情報の確かさを確認し、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を92%以上にする。

取組内容④【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

- ・週に一度のゆとりの日や、長期休業中の閉庁日などを設定し、ワークライフバランスを意識した働き方ができるようにする。
- ・体調不良や家庭の都合で気兼ねなく有給休暇を取得することができるように、チームや学校全体で組織の体制を整えるようにする。

指標

- ・時間外勤務時間について、年720時間を超えて実施する教員をゼロにする。

取組内容⑤【基本的な方向8 生涯学習の支援】

- ・朝の読書タイムや、図書委員会の活動、読書週間の取り組みなどを充実させることで、読書をする習慣を意識付けする。
- ・図書館司書と連携し、児童が読書をする楽しさを味わうことができるような取り組みを企画し実践する。

指標

- ・小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)。」に対して、「読書を全くしない」と回答する児童の割合を30%以下にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点